

NISAで先進国株を選んでいけば1年+9%、3年+23%、5年+44%(手数料等考慮せず)の好リターンで非課税メリット享受!
 実際、日本株投信より先進国株投信を選んでいた様である
 ~最新の投信全体のフロー、NISA向けファンドのフロー、つみたてNISAのフロー~

三菱UFJ国際投信株式会社 商品マーケティング企画部 松尾 健治

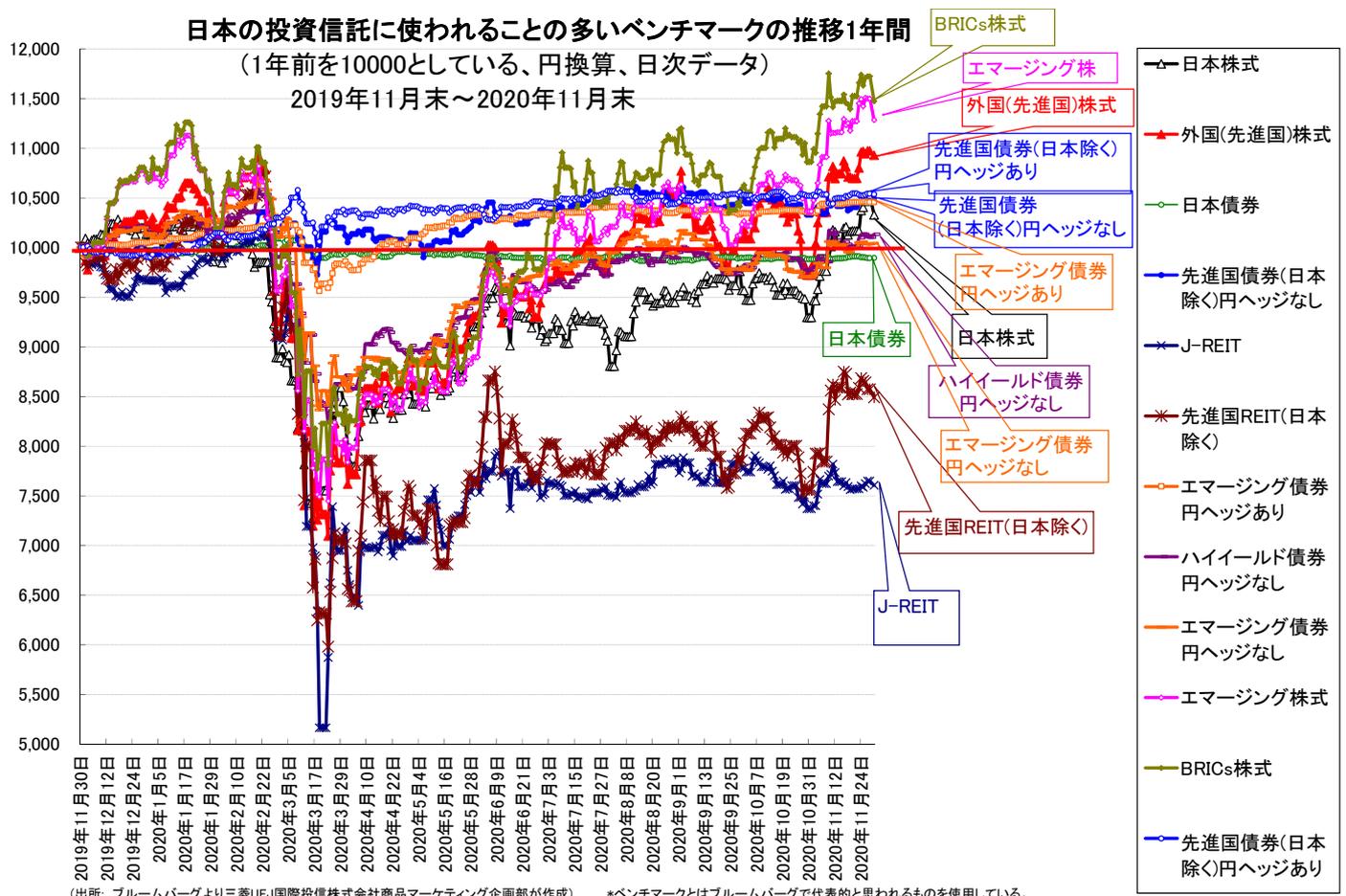
※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

窪田 真美

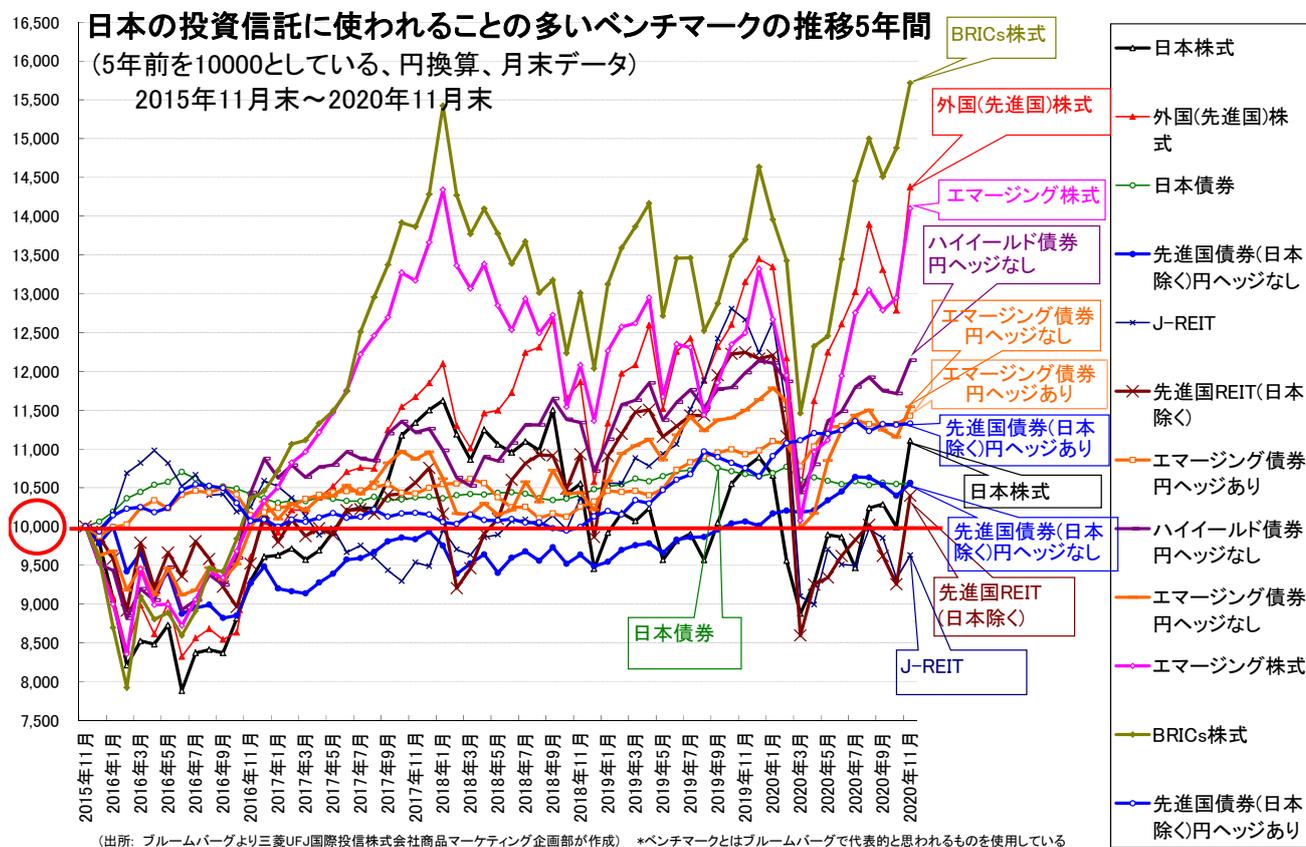
NISAで先進国株を選んでいけば1年+9%、3年+23%、5年+44%(手数料等考慮せず)の好リターンで非課税メリット享受!

2020年が残り1カ月となる中、世界の株価が大きく回復している。NYダウは2020年10月30日の26,510.60(7月31日以来安値)から急反発して11月24日に初の3万ドル台、12月4日に30,218.26の最高値を更新している。日経平均は10月30日の22,977.13(8月28日以来安値)から急反発して12月3日に26,809.37と1991年4月17日以来30年弱ぶりの高値を付けている。

日本の投信がどうなっているかを見るべく、日本の投信に使われる事の多いベンチマークについて、2020年11月末までの1年間パフォーマンス推移を見た。好い順に、BRICs株式、エマーシング株式、先進国株式、先進国債券、エマーシング債券、日本株式など(*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。



5年のパフォーマンス推移も見た。 好い順に、BRICs 株式、先進国株式、エマージング株式、ハイイールド債券、エマージング債券、先進国債券など(*グラフは5年前を10000としている、円換算、月末データ)。



先進国株式のパフォーマンスは、2020年6月からの半年や1年、5年ではBRICs やエマージン株式に次いで好く、2020年11月の1カ月や3年では最も好いパフォーマンスだった。 **NISAの非課税期間は5年間で、NISAで先進国株投信を選んでいれば、新型コロナウイルス感染症のパンデミック(世界的流行)など急落する局面が何度かあったものの、下記テーブル通り、1ヶ月+12%、3ヶ月+3%、6ヶ月+17%、1年+9%、3年+23%、5年+44%(手数料等考慮せず)の好リターンで非課税メリット享受となった事であろう。**

日本の投資信託に使われることの多いベンチマークの円換算パフォーマンス(単位:%)
～5年パフォーマンスの高い順～ *年率換算せず

2020年11月30日

指数名	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年
1 BRICs株式	+6	+5	+26	+15	+13	+57
2 外国(先進国)株式	+12	+3	+17	+9	+23	+44
3 エマージング株式	+9	+8	+27	+13	+7	+41
4 ハイイールド債券円ヘッジなし	+4	+2	+7	+1	+8	+21
5 エマージング債券円ヘッジなし	+4	+0	+6	+0	+6	+15
6 エマージング債券円ヘッジあり	+1	+1	+1	+5	+10	+14
7 外国(先進国)債券円ヘッジあり	+0	+1	+1	+5	+11	+13
8 国内株式	+11	+8	+12	+3	-2	+11
9 国内債券	+0	+0	-0	-1	+2	+6
10 外国(先進国)債券円ヘッジなし	+2	-1	+2	+5	+7	+6
11 先進国REIT(日本除く)	+12	+4	+11	-15	-2	+4
12 国内不動産/REIT	+3	-3	-1	-24	+1	-4

(出所：ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

*ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している。

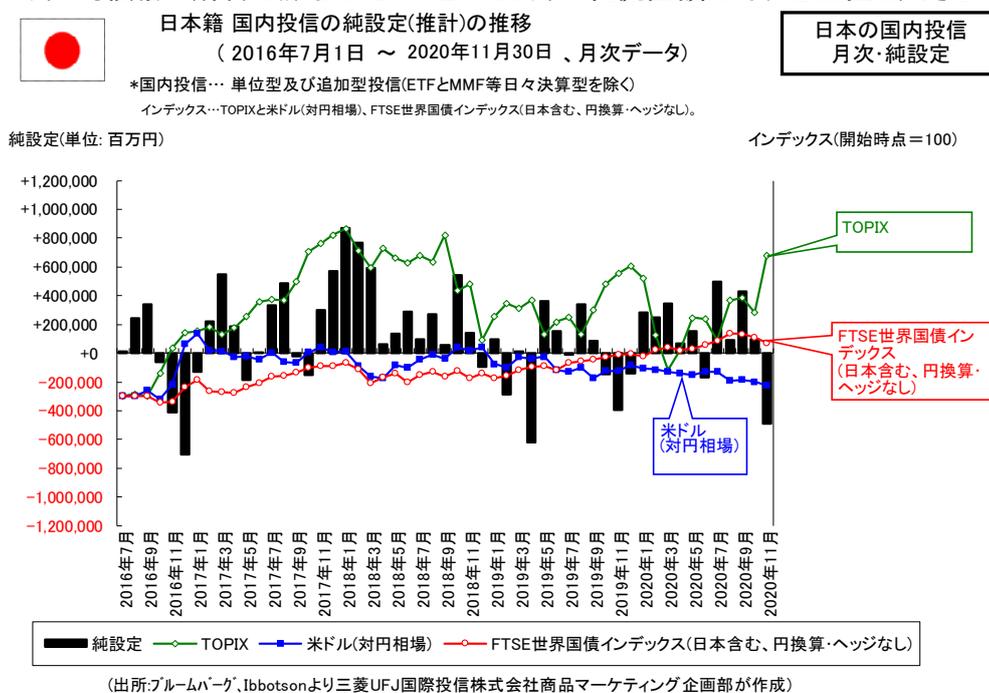
実際、日本株投信より先進国株投信を選んでいた様である

～最新の投信全体のフロー、NISA 向けファンドのフロー、つみたて NISA のフロー～

2020年11月に、日本の投信、特にNISAの投信でどのようなファンドが買われたかを見る。当コラムでは投資家を「既存投資家」と「新規投資家」とに分けている。前者の「既存投資家」は投信全体のフローで代替し、後者の「新規投資家」は「NISA向けファンド」(後述※1参照)で代替する。これは日本証券業協会が「NISAを利用する層としては、投資経験及び投資資金ともに豊富で比較的年齢の高い層だけでなく、投資経験が浅くまた投資資金が少ない若年層まで幅広く考えられる。」(URLは後述[参考ホームページ]①参照)と言っている事も参考としている。

<投信全体のフロー～既存投資家(投信全体)ではグローバル株、米国株、テクノロジー株～>

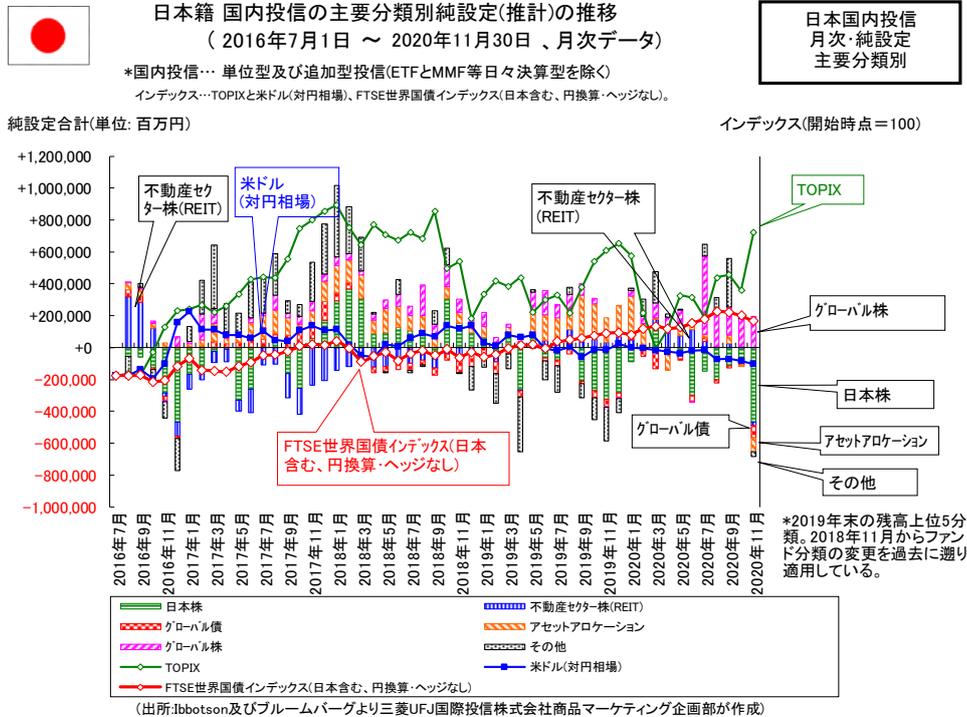
まず、既存投資家を示す投信全体(単位型及び追加型投信～ETFとMMF等日々決算型を除く～)の純設定だが、**最新2020年11月に-4894億円と、5カ月ぶりの純流出となり2019年4月(-6190億円)以来の大きな純流出だった。**2020年3月にも投信の解約は膨らんだが、この11月の純流出額はそれを上回る大きさだ。



この2020年11月の既存投資家の純設定を、投資対象別で見よう(主要分類～後述※2参照)。次頁に示される通り、2020年11月の最大の純流出は日本株である(投信全体の純流出額の95%超を占める)。日本株は約-4700億円と、2014年11月の-6000億円超以来、6年ぶりの大きな純流出だった。2014年11月といえば、「10月末の日銀の追加金融緩和を受けた急激な円安・株高で国内株式ファンドの基準価額も大きく上昇し、いったん売却する動きが出やすかった。」(2014年12月3日付けモーニングスタージャパン～URLは後述[参考ホームページ]②)という可能性が指摘されていた(2014年12月8日付日本版ISAの道 その83～後述[参考ホームページ]②参照)。

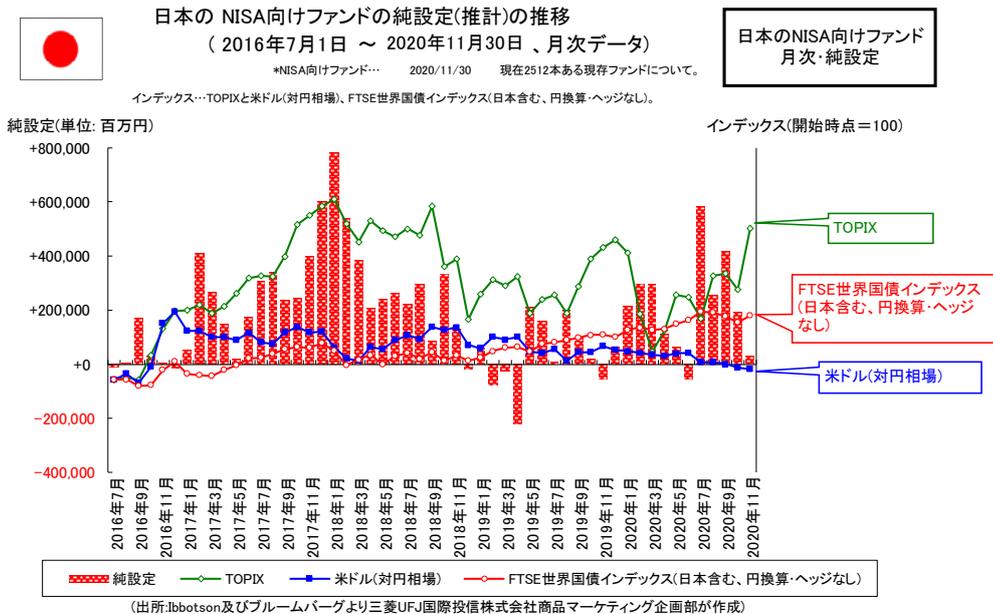
日本株中心に大きな純流出の中、資金を集めたものは、純設定の大きい順に、グローバル株、次いで米国大型グロース株、テクノロジー・セクター株(次頁グラフで米国大型グロース株とテクノロジー・セクター株は「その他」に含む)。グローバル株は、最新2020年11月に+1960億円と2020年は既に11月までの合計で+1.6兆円を超え、前年(1～12月)の約2.4倍の純流入となっている(←2019年+6752億円←2018年+8511億円←2017年+6400億円)。

グローバル株に投資することの多いテクノロジー・セクター株も、最新 11 月に+710 億円と 5 カ月連続の純流入(下記グラフでは「その他」)。前年 2019 年は年間で-8970 億円と言う純流出だったが、2020 年は 2 月頃から純流入に転じて、11 月までの合計+6200 億円の純流入となっている(←2019 年-8970 億円←2018 年+8740 億円←2017 年+1.5 兆円)。



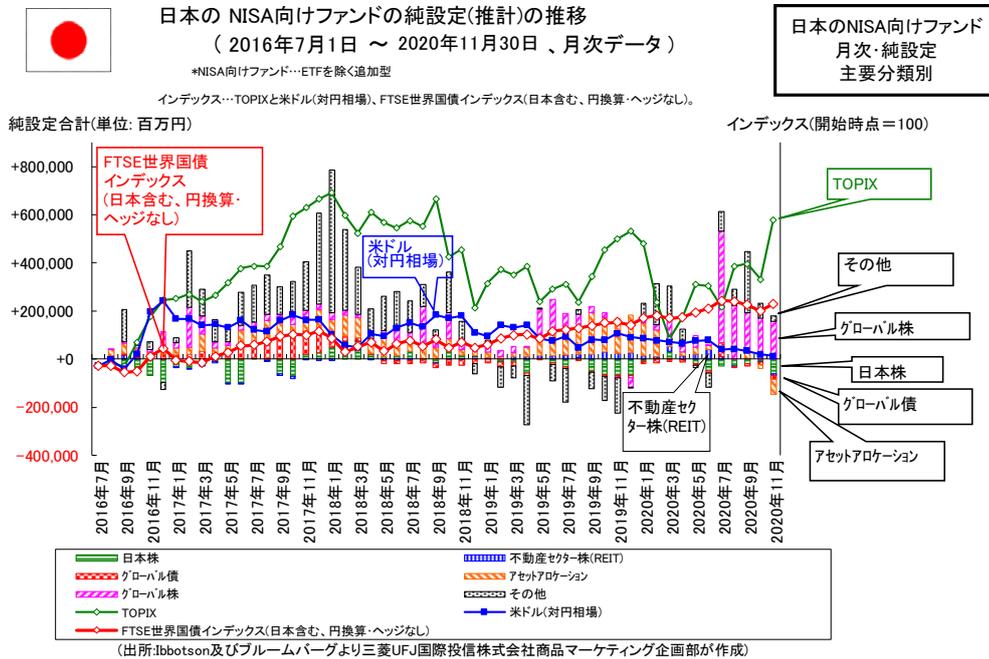
<NISA 向けファンドのフロー～新規投資家はグローバル株、テクノロジー株、米国株～>

次に、新規投資家を示す NISA 向けファンドの純設定を見る。最新 2020 年 11 月は+327 億円と、5 カ月連続の純流入も直近 5 カ月で最も小さい純流入(*NISA 向けファンド…後述※1 参照)。

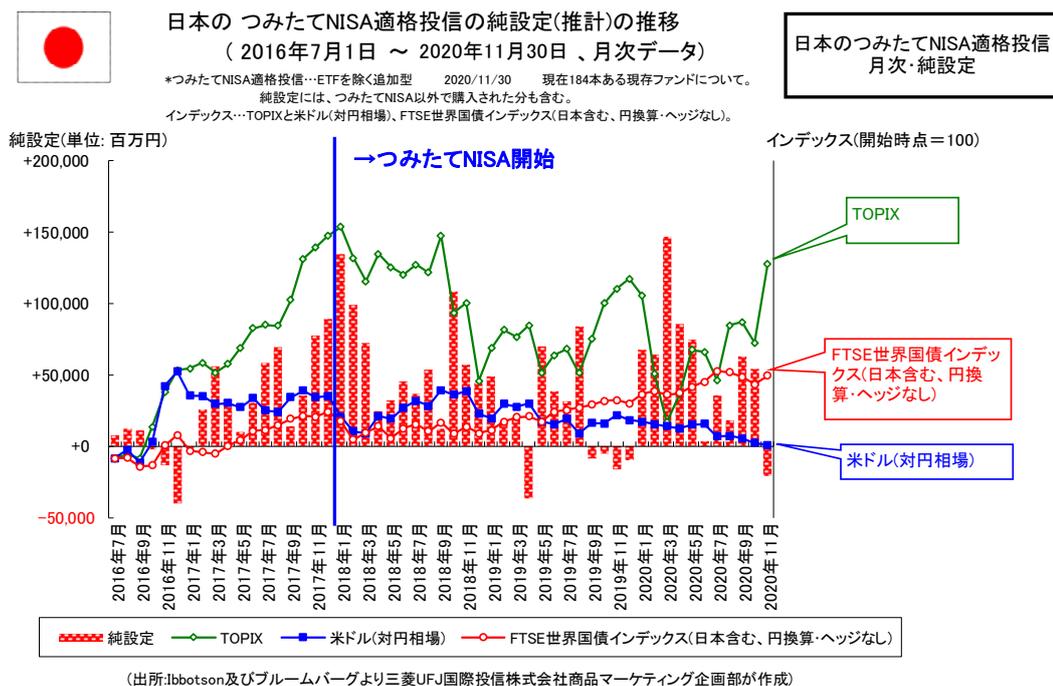


この新規投資家と思われる投信の純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。11月に純設定が最も大きかったのは、投信全体(既存投資家)と同様にグローバル株であり、次いでテクノロジー・セクター株、米国大型ブレンド株である(次頁グラフで、テクノロジー・セクター株や米国大型ブレンド株は「その他」に含む～後述※2 参照)。

年初来(2020年1-11月)で見ても、グローバル株は+1.4兆円と圧倒的1位、次いでテクノロジー・セクター株(+3600億円)、米国大型ブレンド株(+2550億円)となっている。一方、日本株の純流出は続いており、11月は**611億円と8カ月連続の純流出で、昨年2019年12月以来の大きな純流出だった。**

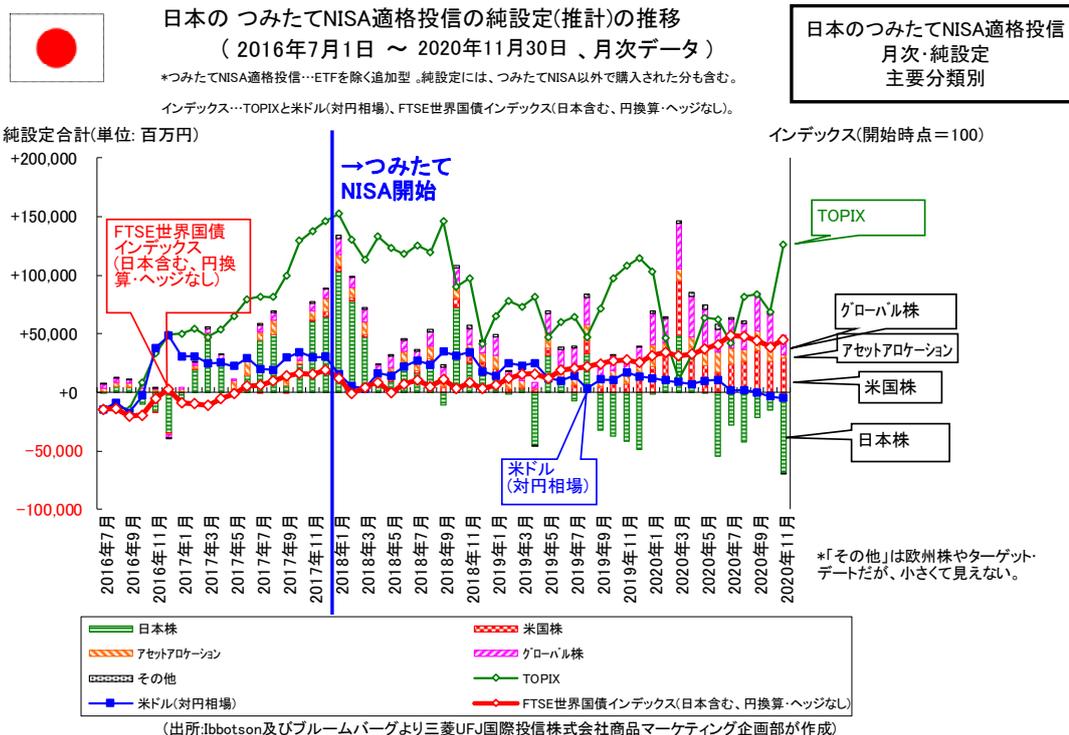


<つみたてNISAのフロー~つみたてNISA投資家(つみたてNISA適格投信)は米国株とグローバル株>
最後に、つみたてNISA適格投信を使い、つみたてNISA投資家の純設定を見る(金融庁「つみたてNISAの対象商品」及びつみたてNISAの要件は2017年4月24日付日本版ISAの道その179~後述[参考ホームページ]①参照)。つみたてNISA適格投信であり、つみたてNISA以外で購入された分を含む(ETFを除く)が、分散・積立投資の資金動向を示すものとも思われる。このつみたてNISA投資家の投信純設定は、2020年11月に-208億円と、昨年2019年12月以来の純流出となった。



投資対象別では **NISA向けファンド(新規投資家)や投信全体(既存投資家)と同様に、11月の最大の純流出は日本株だった。** 日本株は7カ月連続の純流出で、つみたてNISAが開始された2018年1月からで最大の純流出。

一方、純設定の大きかったのは米国株、次いでグローバル株だった。



NISA をきっかけに投資を始めた人や若い世代を中心に多い「**どの商品を購入してよいかわからない**」(2020年2月13日付投資信託協会アンケート～後述[参考ホームページ]①参照)と言われているものの、NISAで先進国株投信を選び好リターンとなり非課税メリット享受していた投資家は多かったとも言えよう。NISAをきっかけに投資を始めた人や若い世代はぜひ「先人」の動向も参考にして、資産形成を進めていってほしいものである。

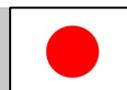
※1: NISA 向けファンド…

投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URLは下記参照)、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。日本証券業協会は「NISA制度の利用者にとって、**短期間に金融商品の買換え(乗換え)を行う又は分配金再投資型の公募株式投資信託につき高い頻度で分配金の支払を受けるといった投資手法等はNISA制度を十分に利用できない場合がある**」(URLは下記参照)、投資信託協会は2013年11月21日に「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」の中で「NISAにおいては一般的に、投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層を意識して、**比較的风险を抑えた商品**」と言っている(URLは下記参照)。

尚、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連法)が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1～2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミليون(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1～2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1～2回以外を除いている(*マネー・プールは年1～2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2020年11月30日時点で2512本となった。

以下、参考 URL である。金融庁「つみたて NISA の対象商品」…「<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/target/index.html>」、2014 年 1 月 8 日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「<https://www.toushin.or.jp/mailmag/backnumber/>」、2019 年 4 月 26 日付日本証券業協会「NISA 制度の口座開設及び勧誘並びに販売時等における留意事項について(ガイドライン)」…「<http://www.jsda.or.jp/anshin/oshirase/files/nisaguideline.pdf>」、2013 年 11 月 21 日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…「<http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/>」、つみたて NISA の要件は 2017 年 4 月 24 日付日本版 ISA の道 その 179「積立 NISA の適格投信は全体の 1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の 1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf」。

※2: 主要分類…



モーニングスター分類で 2019 年 12 月末の純資産の大きい上位 5 分類である。グローバル株は、2018 年 11 月 1 日のグローバル分類の変更でグローバル大型株及びグローバル中小型株と分かれた為、グラフでは、従来通りの「グローバル株」として合算する。また、アセットアロケーション型は、「アセットアロケーション慎重型」、「アセットアロケーション柔軟型」、「アセットアロケーション標準型」、「アセットアロケーション積極型」、「アセットアロケーションその他」を合算。米国大型グロース/ブレンド株、CB、テクノロジー・セクター株、公益セクター株、通信株、日本債などは「その他」に含む。

以 上

[参考ホームページ]

①2020 年 6 月 19 日付日本証券業協会「NISA 制度の口座開設及び勧誘並びに販売時等における留意事項について(ガイドライン)」…「<http://www.jsda.or.jp/anshin/oshirase/files/nisaguideline.pdf>」、

金融庁「つみたて NISA の対象商品」…「<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/target/index.html>」、

つみたて NISA の要件は 2017 年 4 月 24 日付日本版 ISA の道 その 179「積立 NISA の適格投信は全体の 1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の 1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf」、

2020 年 2 月 13 日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査結果-2019 年」…

「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2019/>」。

②2014 年 12 月 3 日付けモーニングスタージャパン 97 年4月以降最大の9877億円流出、国内株式ファンドで利益確定売り強まる—11月推計資金流出入」…「<http://www.morningstar.co.jp/msnews/news?rncNo=1443963&newsType=fund>」、

2014 年 12 月 8 日付日本版 ISA の道 その 83「NISA 元年も残り 1 カ月を切る中、NISA で何に投資する?先月人気だったのは既存投資家がグローバル債、新規投資家がアセットアロケーション柔軟型やグローバル債、ネット証券で REIT と日本株とグローバル株!!」…「<https://www.am.mufg.jp/text/141208.pdf>」。

三菱UFJ国際投信【投信調査コラム】日本版ISAの道 バックナンバー…

「 <https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html> 」、

「 <https://www.am.mufg.jp/smp/market/report/investigate.html> 」

～Google等で「投信調査コラム」もしくは「日本版ISAの道」と検索～

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・TOPIX(東証株価指数)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・FTSE世界国債インデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。